

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外に取り付け方や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しください。

※ 別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も併せてご覧ください。

パイオニア株式会社
〒153-8654 東京都目黒区目黒1-4-1

© パイオニア株式会社 2009
< KFWZX > < 09J00000 > < CRA4323-A/S >

作業の進めかた

①はじめに

- 接続・取り付け部品を確認する 2

②接続のしかた

- 接続の前に知ってほしいこと 4
- 接続端子の名称と働き 6
- システムの接続 7
- 電源コードの接続 (1) 8
- 電源コードの接続 (2) 10
- 地上デジタル TV チューナー
/IP-BUS 機器 /VTR/ バックカメラ
/リアモニターの接続 12

③取り付けかた

- 取り付けの前に知ってほしいこと 14
- ナビゲーション本体の取り付け 15
- GPS アンテナの取り付け 18
- ハンズフリー用マイクの取り付け 19
- フィルムアンテナの取り付け 20

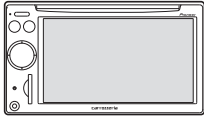
④接続・取り付けが終わったら

- 接続・取り付けの確認を行う 27
- サブウーファーの設定を行う 29
- バックカメラの設定を行う 30
- 外部機器の入力設定を行う 31

接続・取り付けが終わったら、必ず接続・取り付けの確認～外部機器の入力設定（18P 27～31 ページ）を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



ナビゲーション本体× 1



バインドネジ (5 × 6 mm) × 8

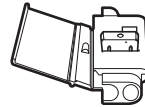


皿ネジ (5 × 6 mm) × 8

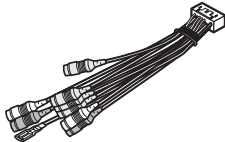
接続ケーブル関係



電源コード× 1



Uエレメントコネクター× 1



RCA 入出力ケーブル× 1

ハンズフリー用マイク関係



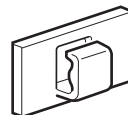
ハンズフリー用マイク× 1



マイククリップ× 1

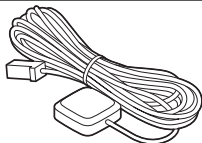


両面テープ (15 × 12mm) × 1



クランパー× 3

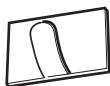
GPS アンテナ関係



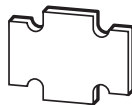
GPS アンテナ× 1



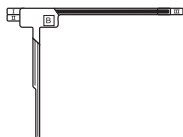
金属シート× 1



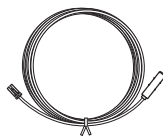
クランパー× 3

両面テープ
(25 × 34mm) × 1

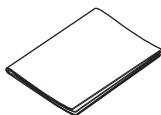
フィルムアンテナ関係



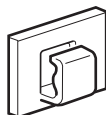
フィルムアンテナ× 1



アンテナケーブル× 1



クリーナークロス× 1



クランパー× 3

接続の前に知ってほしいこと

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

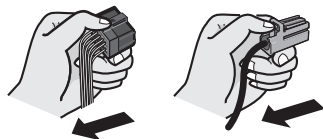
接続上のご注意

- 本機は、エンジンスイッチに ACC ポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けたと、バッテリー上がりの原因になります。
- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗します。
- 若草色リード線（パーキングブレーキスイッチ）は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しないと一部の機能が使用できなくなります。
- 黒リード線（アース）は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けたと、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。
- 必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障する恐れがあります。
- スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの（-）リード線を、共通にして接続しないでください。
- 本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力 50W 以上のハイパワー用で、インピーダンスが 4 Ω から 8 Ω のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーやアンプの発火・発煙・破損の原因となります。
- ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線（アンテナコントロール）を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオ放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

コネクターの脱着のしかた

- コネクターは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。
- スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクターどうしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。
- コネクターを外すときは、図のようにコネクター部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続のポイント

ノイズ防止のために

- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコードそれぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。
- RCA コードに何も接続しない場合は、付属のキャップを外さないでください。

IP-BUS の接続について

- IP-BUS の端子とケーブルは、同じ色どうしを接続してください。(コネクタの接続部分が色分けされています。) 違う色のコネクタを接続すると、正常に動作しないことがあります。

電源配線キットを別売しています

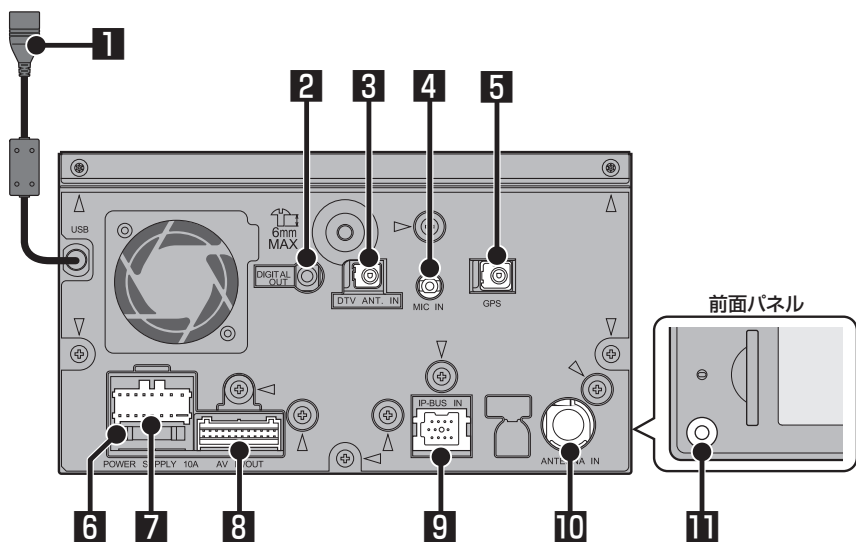
- システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

ピンクリード線の接続について

- ピンクリード線(車速信号入力)は、必ず接続してください。
- ピンクリード線を接続しない場合は、測位誤差が大きくなる場合があります。(※『ナビゲーション & オーディオブック』の「ナビゲーションのしくみ」)
- ピンクリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)をお使いください。

接続端子の名称と働き

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



1 USB 接続端子

iPod や USB メモリーを接続できます。
(※ 7 ページ)

2 デジタル出力端子 (灰)

本機では使用しません。

3 ワンセグアンテナ入力端子 (茶)

付属のフィルムアンテナを接続します。
(※ 7 ページ)

4 ハンズフリー用マイク入力端子 (黒)

付属のハンズフリー用マイクを接続します。
(※ 7 ページ)

5 GPS アンテナ接続端子 (緑)

付属の GPS アンテナを接続します。
(※ 7 ページ)

6 ヒューズ (10 A)

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

7 電源端子 (黒)

付属の電源コードを接続します。
(※ 8 ~ 11 ページ)

8 映像・音声入出力端子 (白)

付属の RCA 入出力ケーブルを接続します。
(※ 7 ~ 9、12 ~ 13 ページ)

9 IP-BUS 入力 (青)

IP-BUS 出力のある製品を接続できます。
(※ 12 ~ 13 ページ)

10 AM/FM/VICS アンテナ入力端子

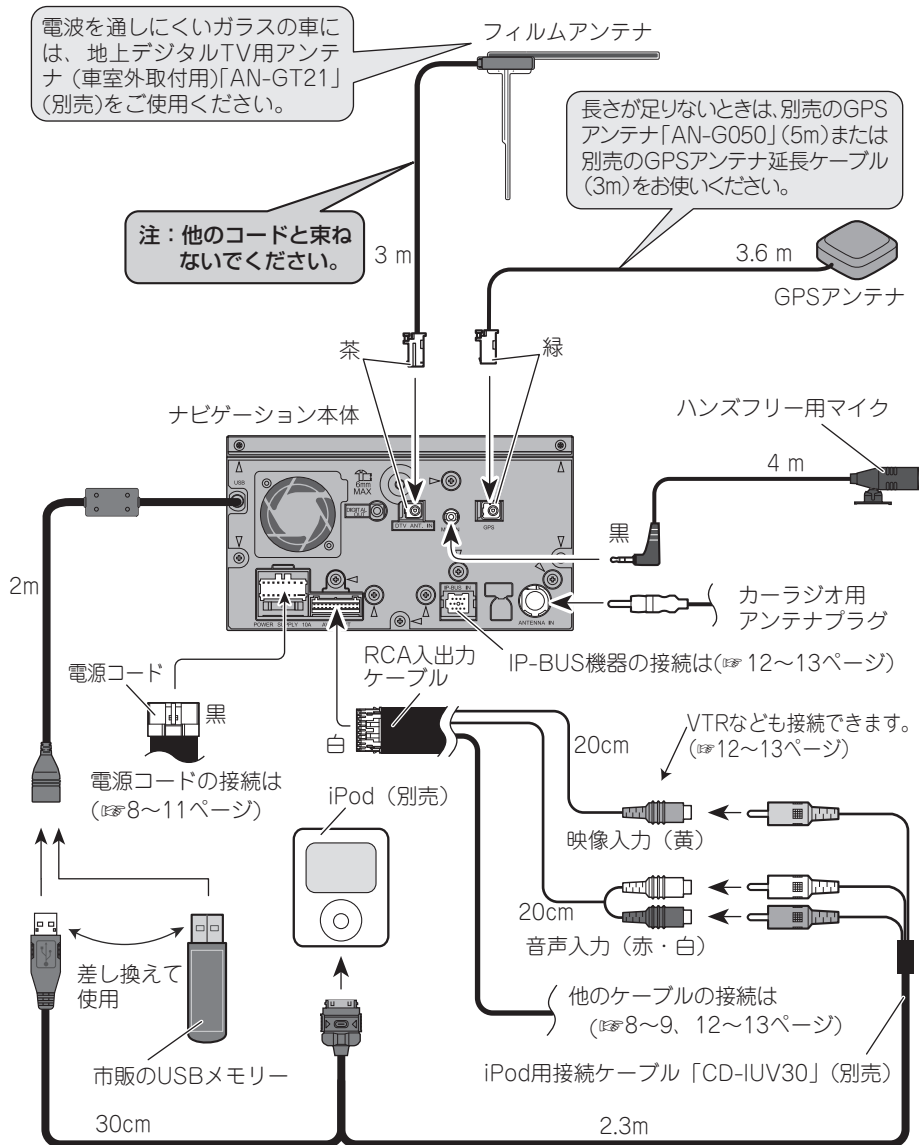
車載のラジオ用アンテナを接続します。
(※ 7 ページ)

11 AV 入力端子 (3.5mm 4 極ミニジャック)

別売の AV 入力用変換ケーブル「CD-VRM200」を使って、ポータブルビデオなどの外部映像機器を接続することができます。また、市販の 3.5mm ステレオミニプラグを使って外部オーディオ機器を接続することもできます。外部機器接続後は、「AV 設定」—「その他設定」—【AV2 入力】の設定が必要です。(※ 31 ページ)

システムの接続

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—



メモ

- iPodを接続したときは、「AV設定」—「その他設定」の【AV1入力】の設定が必要です。(ⓘ 31ページ)

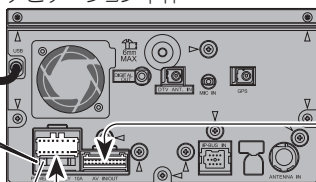
電源コードの接続 (1)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：製品の発煙・故障を防ぐために、黒リード線を必ずいちばん初めに接続してください。

ナビゲーション本体



RCA入出力ケーブル



電源コード

アース

車のボディの金属部に確実に接続してください。ノイズ防止のため、できるだけナビゲーション本体の近くに接続してください。

黒 41 cm

+バッテリー電源

車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

黄 26 cm

アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けけないでください。バッテリー上がりの原因になります。

赤 16 cm

イルミ電源

車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。

橙/白 16 cm

アンテナコントロール

アンテナをコントロールするために使用します。(12 V DC、300 mA以内でご使用ください。) 下記以外の場合は、何も接続しないでください。

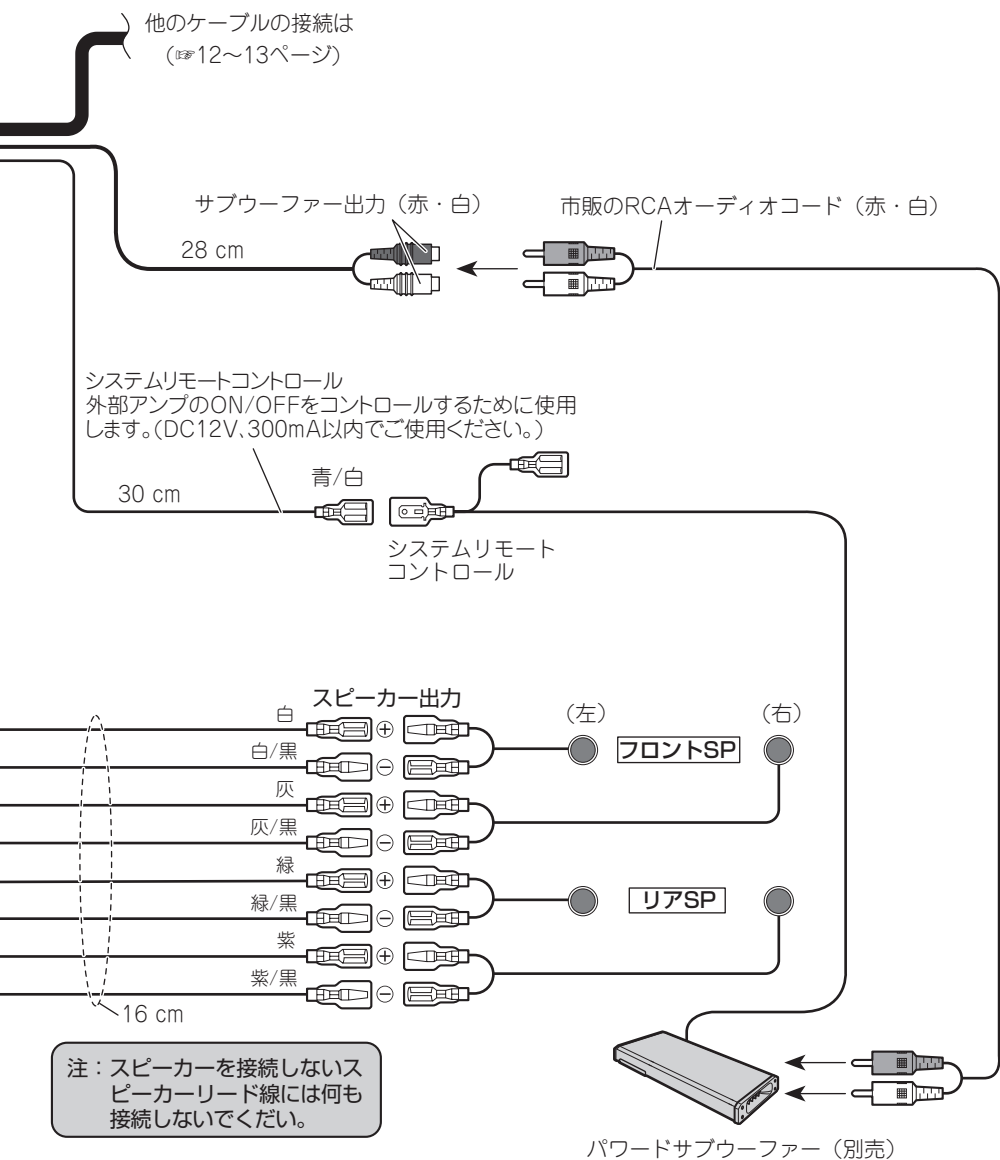
青 16 cm

- オートアンテナ車の場合※：車側のオートアンテナのコントロール入力端子に接続してください。
- ルーフアンテナ車やガラスアンテナ車の場合：車側のアンテナプースターの電源入力端子に接続してください。

注：赤、橙/白、黄リード線は車のヒューズユニットを通したあとの端子に接続してください。

※車載のアンテナがオートアンテナの場合、エンジンスイッチのON（本機の電源ON）に連動してアンテナが上がります。屋内ではご注意ください。アンテナを下げるには、[現在地] ボタンを2秒以上押します。

他のリード線の接続は (P.10~11ページ)



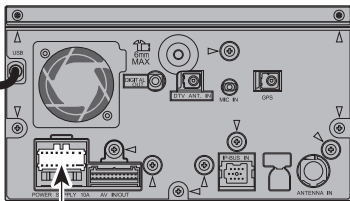
メモ

- サブウーファーを接続したときは、サブウーファー設定を行ってください。([12](#) [29](#) ページ)

電源コードの接続 (2)

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

ナビゲーション本体



電源コード 黒

他のリード線の接続は
(※8～9ページ)

若草色 2.1 m

バック信号入力

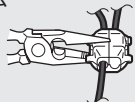
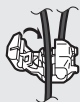
この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

※接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

※別売のバックカメラユニットを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

接続方法



バックランプのリード線をはさみ込む。



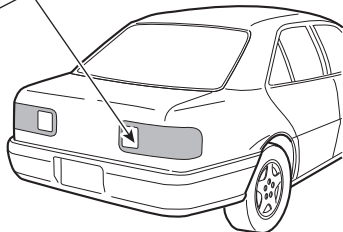
ラジオペンチで強くはさむ。

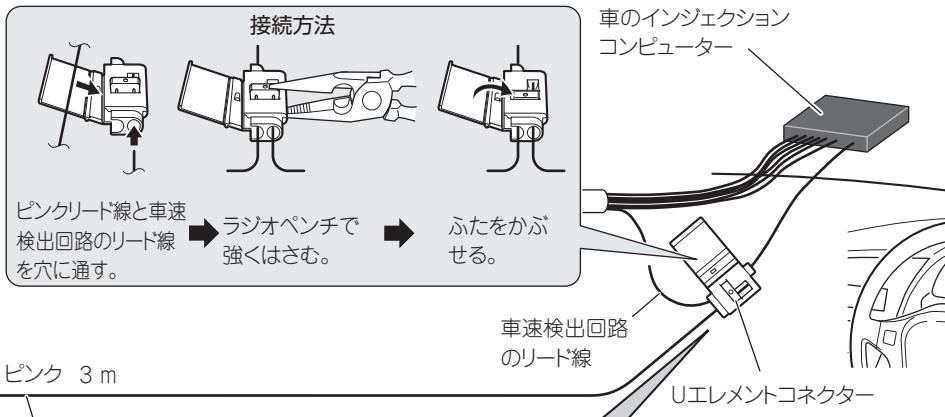
紫/白
8 m

ヒューズ抵抗

バックランプの
リード線

バックランプ(シフトレバーがリバース [R] のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





ピンク 3 m

車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。
必ず車の車速検出回路に接続してください。
(車の車速検出回路への接続が困難な場合は、
車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続
することもできます。)

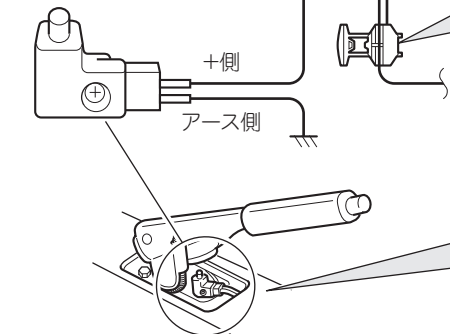
注：必ず付属の エlementコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

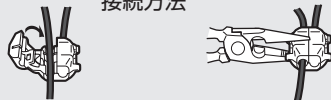
パーキングブレーキスイッチ

車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

パーキングブレーキスイッチ



接続方法



パーキングブレーキスイッチの+側リード線 → ラジオペンチで強くはさむ。

パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

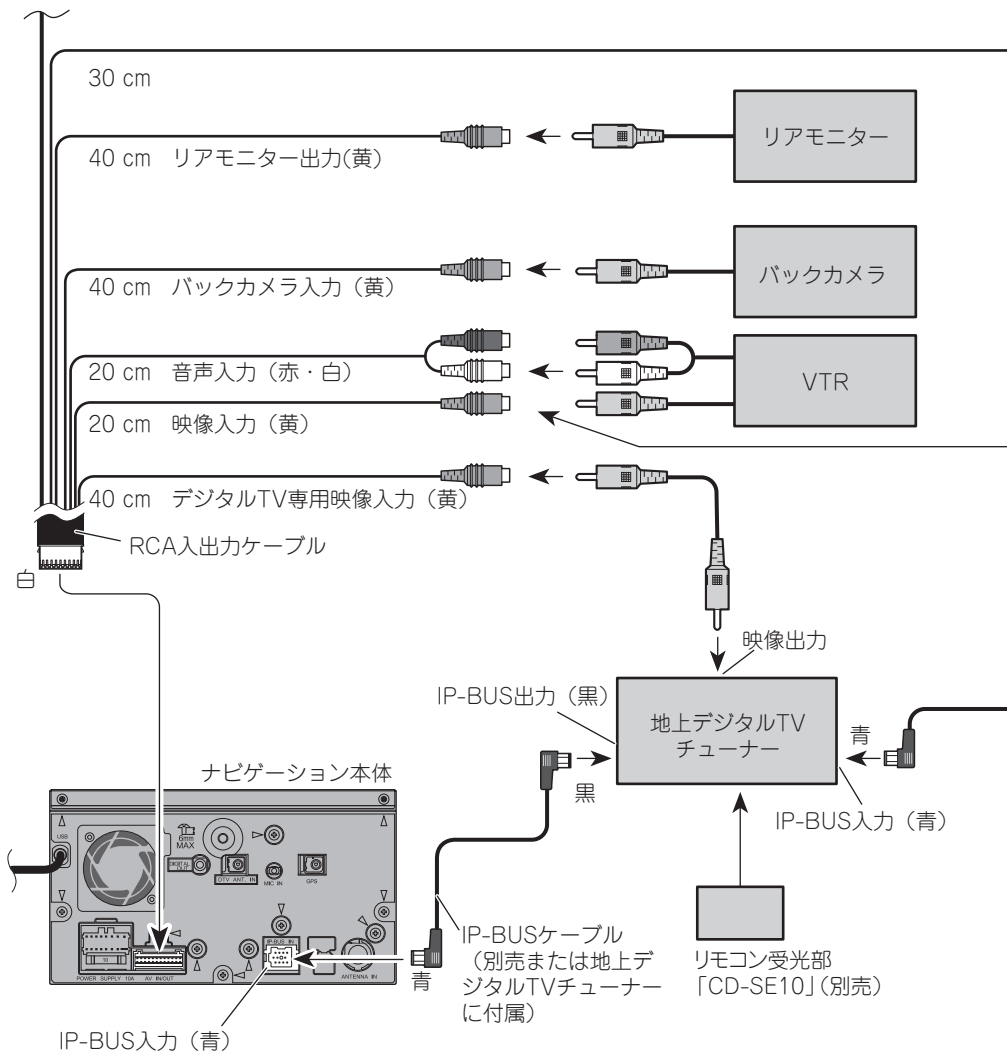


地上デジタルTV チューナー / IP-BUS 機器

—必ず車のバッテリーの⊖端子を外してから接続してください—

本機には、下記の外部機器が接続できます。

他のケーブルの接続は
(※7～9ページ)



⚠ 注意

- 接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができない位置に設置してください。
- パイオニア製「TVM-W シリーズ」以外のモニターを接続した場合は画像が乱れる場合があります。また、フロントモニターに表示される映像と画質は異なります。

VTR/バックカメラ/リアモニターの接続

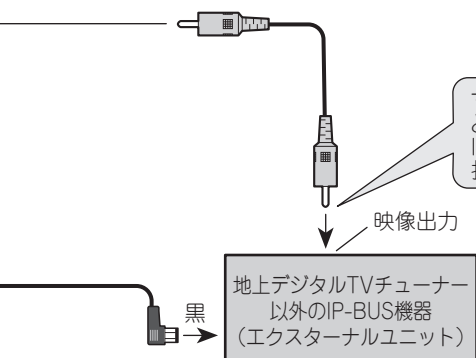


青/白

システムリモートコントロール

外部アンプのON/OFFをコントロールするために使用します。(本機の電源がONになると、コントロール信号が出力されます。)外部アンプのシステムリモートコントロールに接続してください。
(12 V DC、300mA以内でご使用ください。)

映像入力 (黄) へ



マルチDVDプレーヤーなどの映像ソースのIP-BUS機器の場合のみ接続します。

映像出力

地上デジタルTVチューナー
以外のIP-BUS機器
(エクスターナルユニット)

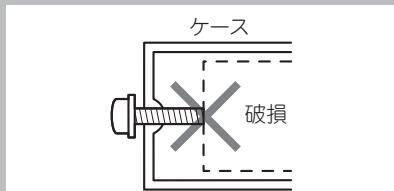
メモ

- 接続するIP-BUS機器にモードスイッチがある場合、IP-SOURCEモードに設定してください。詳しくは、IP-BUS機器の取付説明書をご覧ください。
- 別売の地上デジタルTVチューナー「GEX-P90DTV/P70DTV」をお使いになる場合は、別売のリモコン受光部「CD-SE10」が必要です。「CD-SE10」を使用しないと、番組表の表示など一部の機能が使用できません。
- エクスターナルユニットは2台まで接続できます。エクスターナルユニットについては、『ナビゲーション&オーディオブック』の「エクスターナルユニットの操作のしかた」をご覧ください。
- 本機は、地上デジタルTVチューナー以外のIP-BUS機器をエクスターナルユニットとして認識します。ただし、マルチCDプレーヤーはご使用になれません。
- VTRや映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときは、「AV設定」→「その他設定」の【AV1入力】の設定が必要です。(31 ページ)
- バックカメラを接続したときは、バック信号入力線(10 ページ)の接続と、「システム設定」の【バックカメラ】の設定が必要です。(30 ページ)

取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

- 必ず本機に付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

- まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認します。このときアンテナ類などは、受信状態のよい位置を確かめてから取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続に間違いがないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

- マジックテープや両面テープを貼り付ける場所は、汚れをよくふきとってください。

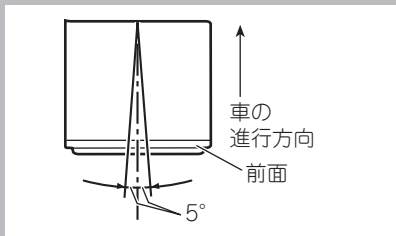
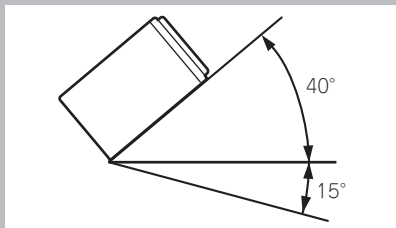
ノイズ防止のために

- フィルムアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。フィルムアンテナは、フィルムアンテナの取り付け（※ 20 ページ）の説明に従って正しく取り付けてください。
- ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。
 - * フィルムアンテナおよびそのアンテナコード
 - * FM/AM アンテナおよびそのアンテナコード
 - * GPS アンテナおよびそのアンテナコード
 それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

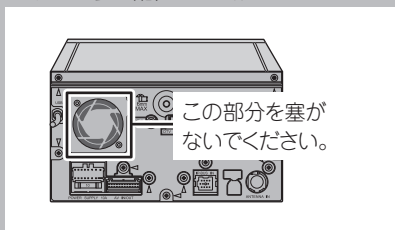
ナビゲーション本体の取り付け

取り付け上のご注意

- 本機の性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き 40 度以内、下の傾き 15 度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対してナビゲーション本体の前面が 5 度以内の角度で取り付けてください。



- 必ず本機に付属のネジを使用して取り付けください。付属のネジよりも長いネジを使用すると、本機内部の部品をいためることがあります。
- 放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。



取り付けのポイント

取付キットを別売しています

- 日産車に取り付ける場合は、車種や年式によって別売の日産車用取付化粧パネル「ADT-N979Ⅱ」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。
- ※ 本機に「ADT-N979Ⅱ」を使用する場合は、上部にすきまができるようにパネルを上方向に寄せて取り付けてください。パネルを固定する際は、左右のみテープ止めを行い、上下にはテープを貼らないでください。

- 車種や年式によっては、別売のパイオニア製取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意しておりますので、販売店にご相談ください。

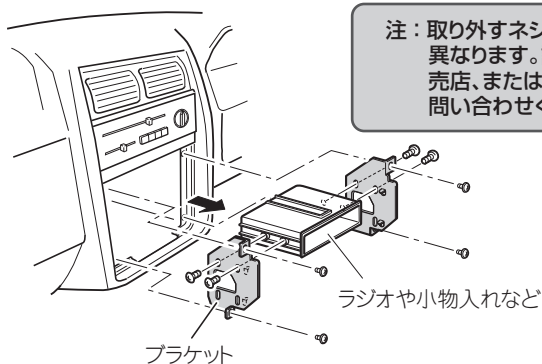


ナビゲーション本体の取り付け

つづき

1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



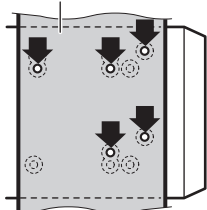
注：取り外すネジの位置などは車種により異なります。詳しくは、お買い上げの販売店、または、最寄りのディーラーにお問い合わせください。

2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねて、ネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所または3カ所合う位置があります。

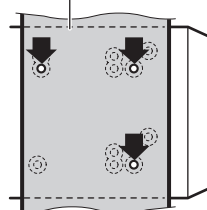
トヨタ車の場合

トヨタ車ブラケット



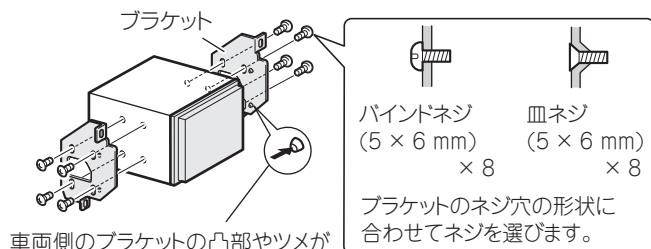
日産車の場合

日産車ブラケット



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

左側、右側、それぞれ 4 か所（または 3 か所）ずつ、付属のネジでネジ止めして、元どおり車に取り付けます。



車両側のブラケットの凸部やツメが邪魔になり、浮いてしまう場合は、それらをハンマーなどでつぶす必要があります。

* 作業の際には安全に十分ご注意ください。

**注：付属のネジ以外は使用しないでください。
付属のネジよりも長いネジを使用すると、
本機内部の部品をいためることがあります。**

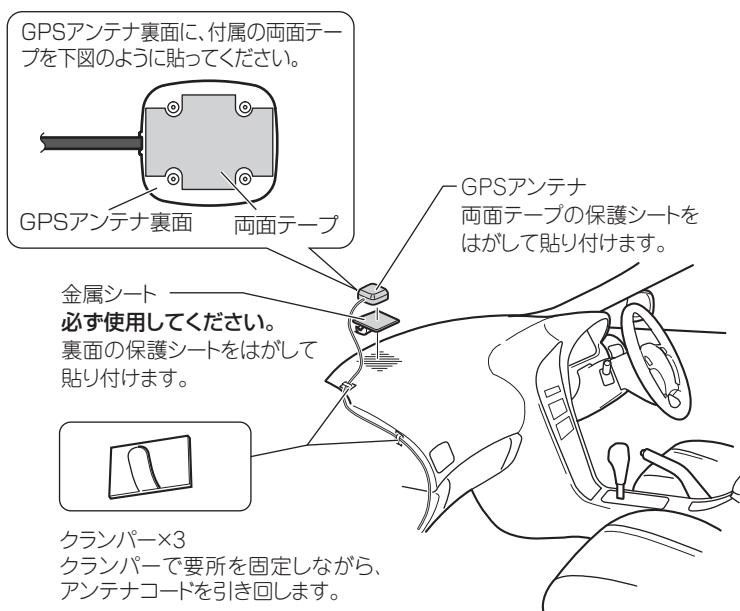
GPS アンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 付属の GPS アンテナは車室内取付専用です。電波を通さないガラスを使用した車種の場合は、別売の GPS アンテナ（車室外取付用）「AN-G050」（5 m）をお使いください。
- GPS アンテナは、ワイパーやピラーなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。
- GPS アンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
- GPS アンテナの取り付けには、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。
- 付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。
- GPS アンテナは、ナビゲーション本体から 30cm 以上離して設置してください。また、余った GPS アンテナコードをまとめて置くとともに、ナビゲーション本体から 30cm 以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下する場合があります。
- GPS アンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。コードが抜けてしまうことがあります。

取付例（ダッシュボード上）

なるべく水平な場所、またはアンテナがウィンドウの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPS アンテナを金属シートの上に貼り付けます。



ハンズフリー用マイクの取り付け

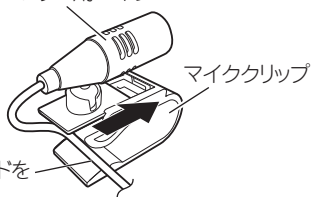
取り付け上のご注意

ハンズフリー時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。また、エコー（反響音）を軽減するため、なるべく車のスピーカーから離れた位置に設置してください。

サンバイザーにはさんで取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける

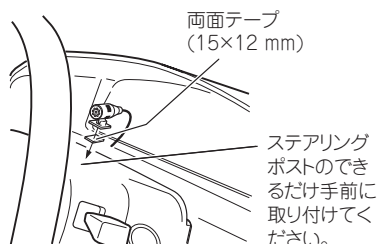
ハンズフリー用マイク



溝にマイクコードを埋め込みます。

ステアリングポストに取り付ける場合

1 ステアリングポストにマイクを取り付ける

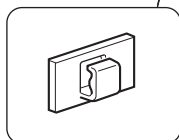
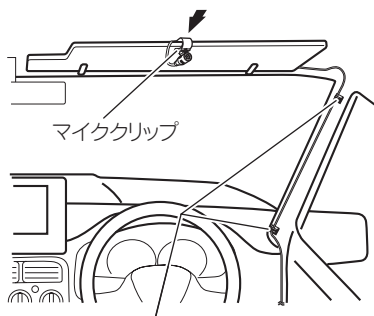


クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

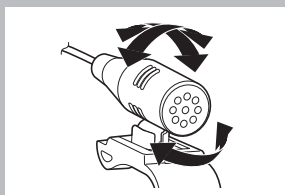
サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、通話相手側へ音声が届きにくくなります。



クランパー×3
クランパーで要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。

マイク角度の調節のしかた

マイクの角度は、マイククリップの可動部を矢印の方向に動かして調節します。



フィルムアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

- 保安基準*に適合させるため、本書をよくお読みになり、正しく貼り付けてください。
* 保安基準とは、道路運送車両の保安基準第29条第4項第6号に対する、平成15年9月26日付の運輸省(現、国土交通省)令第95号をいいます。
- アンテナは、フロントウィンドウ貼り付け専用です。フロントウィンドウ以外には取り付けしないでください。
- 熱線やプリントアンテナ上には貼り付けしないでください。ショートや発熱、性能劣化の原因になります。
- ピラーにフロントエアバッグを搭載している車両には、取り付けることができません。
- 必ずフロントウィンドウの指定の位置・寸法内に貼り付けてください。
- 車室内に取り付けるアンテナは、エアコン用モーターなどから出るノイズにより、テレビの映りが悪くなる場合がありますが、故障ではありません。
- 車種によって、取り付けられない場合があります。販売店に相談してください。
- 熱線反射ガラスや断熱ガラス、電波不透過ガラスなど、電波を通さないガラスを使用した車種の場合には、受信感度が極端に低下します。お買い上げの販売店に確認してください。
- 必ず車内の取り付け場所に、市販のテープなどでいったんフィルムアンテナとアンテナケーブルを仮止めして、エレメントとアンプが貼り付けられることを確認してください。
- フィルムアンテナのフィルムやアンプの裏シートをはがしたあとは、給電端子などに手を触れないでください。静電気による故障や汗や汚れなどで接触不良の原因となります。
- フィルムアンテナは折り曲げないように、取り扱いに注意してください。
- 作業場所は、風が無く、空気中にゴミ、ホコリなどが無い場所を選んでください。
- 気温が低いときやガラスがくもってしまう場合は、接着力の低下を防ぐため、車内ヒーターやデフロスタースイッチをONにしてウィンドウを暖めておいてください。
- 他のアンテナから10cm以上離して取り付けてください。
- 指定の位置や寸法内に取り付けられないことがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- アンテナの余りをまとめる場合は、十分な曲げ角度(半径15mm以上)を確保してください。

他のフィルムアンテナとの干渉を考慮して貼り付け位置を決めてください。

一度貼り付けると、粘着力が弱くなるため貼り直しできません。
必ずコードおよびフィルムアンテナを仮止めし、コードの引き回しなどを十分に検討してから貼り付けてください。

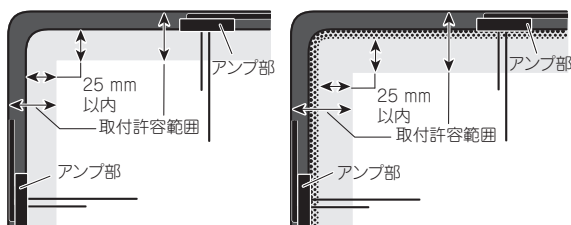
貼り付け位置について

⚠️ 必ずお守りください

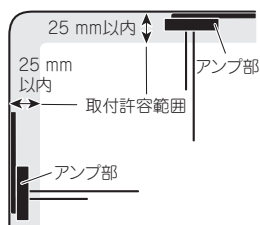
運転に安全な視野を確保し、性能を十分に発揮させるために、必ず下図の「ブースターアンブおよび金属部の貼付許容範囲」の位置に貼り付けてください。許容範囲外に貼り付けると道路運送車両の保安基準に適合せず、車検に通らなかったり、整備不良の対象となります。

アンブ部の貼付許容範囲

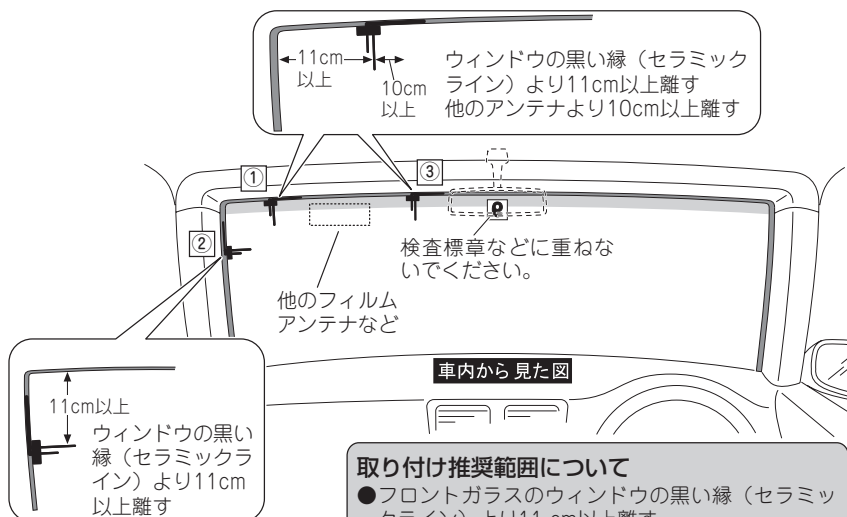
■ セラミックライン有り



■ セラミックライン無し



フィルムアンテナは、以下の推奨位置①～③のいずれかに取り付けてください。
本書では推奨位置①を例に説明します。



取り付け推奨範囲について

- フロントガラスのウィンドウの黒い縁（セラミックライン）より11cm以上離す。
- 他のアンテナより10cm以上離す。

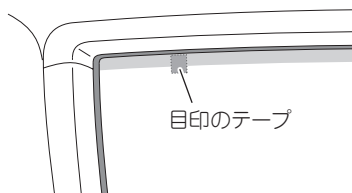
フィルムアンテナの取り付け

つづき

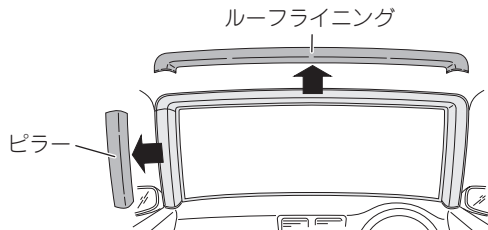
フィルムアンテナを貼り付ける

1 フィルムの仮位置を決める

フィルムアンテナの貼り付けの際、「貼り付け位置について」を参照して仮位置を決め、テープなどで目印を付けてください。



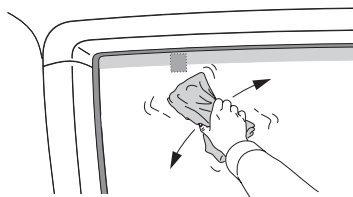
2 車内の内張り（ピラー、ルーフライニングなど）を取り外す



3 ケーブルを引き回す仮位置を決める

4 フロントウィンドウ内側の汚れ、油などを取り除く

フィルムアンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを、付属のクリーナークロスで取り除いてください。

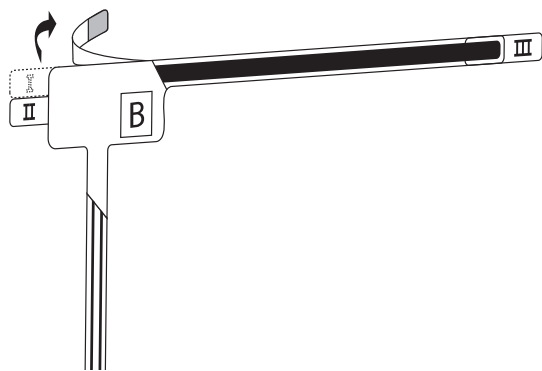


注：クリーナークロスで拭いたあとは、貼り付ける場所およびエレメントには触れないでください。

5 フィルムアンテナを貼り付ける場所を、十分に乾燥させる

6 セパレーター I をはがす

タグを持ってセパレーター I をゆっくりはがします。



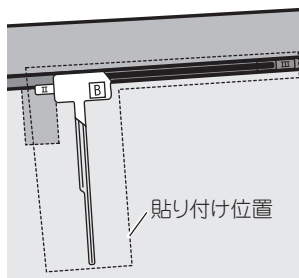
※ セパレーター I をはがしたあとは、粘着面に触れないでください。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

7 フィルムをフロントウィンドウに貼り付ける

ガラス面の目印にフィルムを合わせ、フィルムに空気が入ったり、シワが寄らないようにゆっくりと端から貼り付けます。また、一度貼り付けたフィルムをはがしたり位置を変えたりすることはできません。

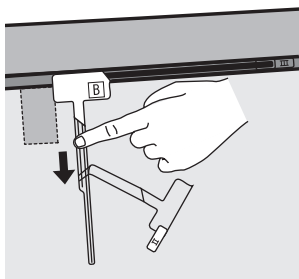


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからフィルムを貼り付けてください。

※ ガラス面が乾いたことを確認してから貼り付けてください。ガラス面が濡れているとフィルムがガラス面に貼り付かないおそれがあります。

8 セパレーターⅡをはがしながらエレメントを貼り付ける

指でエレメントをガラス面に押しつけながらセパレーターⅡをはがしてください。

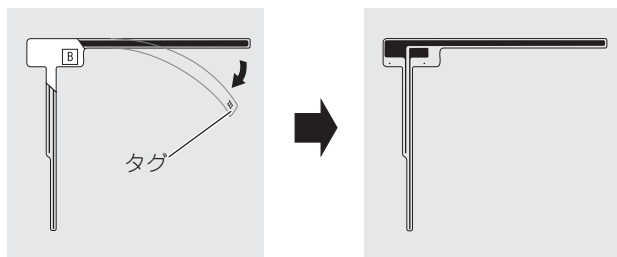


注：十分に汚れ、油膜、水分を拭きとってから貼り付けてください。また、真冬に車内が温かくなると、窓ガラスが結露しますので、十分に乾燥させてからエレメントを貼り付けてください。

※ 手順 10 でアンブを貼り付ける部分には触れないでください。

9 保護フィルムⅢをはがす

エレメントがガラス面に貼り付いていることを確認しながら、タグを持って保護フィルムⅢをゆっくりはがします。

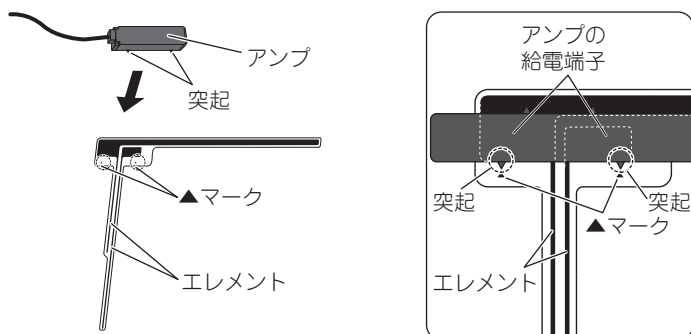


エレメントだけが貼り付く

※ エレメントが保護フィルムⅢと一緒にはがれる場合は、保護フィルムⅢを元に戻してガラス面に貼り付くように強く押しつけてください。

10 アンプをエレメントに貼り付ける

アンプの裏シートをはがして、エレメントの給電端子接触部の▲マークと、アンプの給電端子の突起を合わせるように貼り付けます。



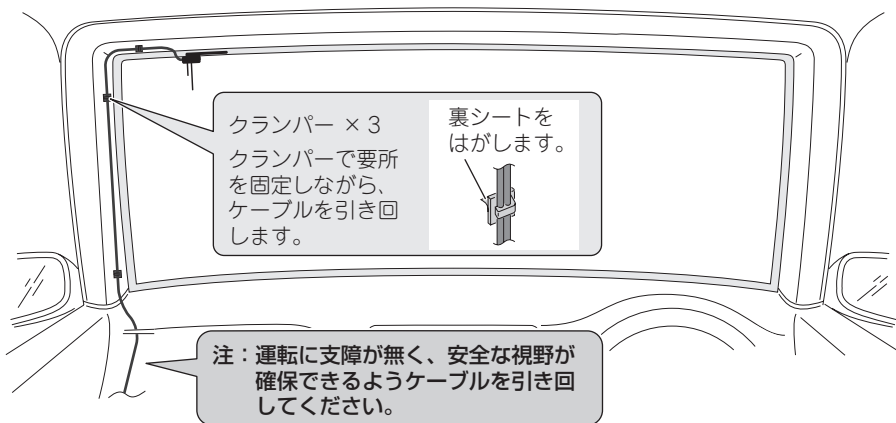
注：ケーブルを引っ張った状態で貼り付けしないでください。

注：フィルムアンテナの▲マークとアンプ部の突起を合わせないと、受信できません。

フィルムアンテナの取り付け

つづき

11 ケーブルを引き回す



12 内張りを元に戻す

注：アンプのケーブル根元部に負荷がかからないように注意してください。

接続・取り付けの確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、接続・取り付けの確認を行ってください。

1 車のエンジンをかける



2 地図画面が表示されたら「メニュー」ボタンを押す

3 設定・編集にタッチする



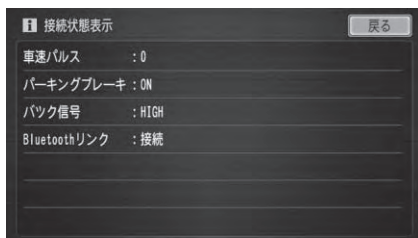
4 各種情報にタッチする



5 接続状態表示にタッチする



6 接続状態を確認する (次ページ)



7 接続状態を確認したら、「現在地」ボタンを押す



接続・取り付けの確認を行う

つづき

接続状態画面の見かた

車速パルス

車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発音音が出て、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速 5km 程度）で行ってください。

パーキングブレーキ：

パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると [OFF]、かけ直すと [ON] が表示されます。

バック信号：

バック信号入力（紫 / 白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーを R（リバース）の位置から R（リバース）以外の位置にすると LOW から HIGH または HIGH から LOW に切り換わります。

Bluetooth リンク：

Bluetooth での接続状態が表示されます。正しく接続されていれば「接続」、接続されていない場合は「未接続」と表示されます。

サブウーファーの設定を行う

本機にサブウーファーを接続したときは、サブウーファーを固定したあと、車の窓やドアを閉めた状態でサブウーファーの設定を行ってください。

工場出荷時は、「サブウーファー設定：ON」・「位相：ノーマル」・「レベル：±0」・「周波数：80Hz」です。

1 低音を含む音楽を再生する

2 「メニュー」ボタンを押す

3 設定・編集にタッチする



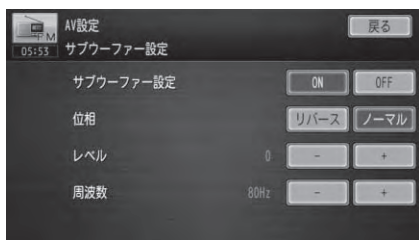
4 AV設定にタッチする



5 サブウーファー設定にタッチする



6 各項目を選び、設定を行う



サブウーファー設定	ONに設定します。
位相	違和感が無く、低音の音量が大きく聞こえる方を選びます。
レベル/周波数	適切な音質に調整します。

7 各項目を設定したら、「現在地」ボタンを押す

バックカメラの設定を行う

本機にバックカメラを接続したときは、バックカメラの設定を行ってください。
工場出荷時は、「バックカメラ：OFF」・「バックカメラ極性：HIGH」です。

1 「メニュー」ボタンを押す

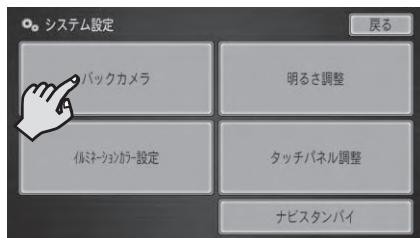
2 設定・編集にタッチする



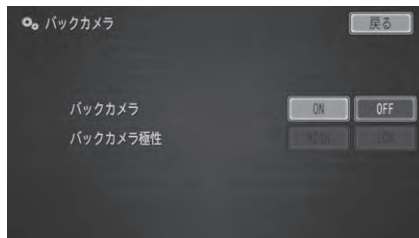
3 システム設定にタッチする



4 バックカメラにタッチする



5 各項目を選び、設定を行う



バックカメラ

本機にバックカメラを接続したときに設定します。

ON 接続したとき。

OFF 接続していないとき。

バックカメラ極性

本機にバックカメラを接続したときに車のバック信号の極性に合わせて設定します。

HIGH 接続状態画面 (27 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [HIGH] になる車両の場合はこちらを選びます。

LOW 接続状態画面 (27 ページ) で、シフトレバーをバックに切り換えたときに「バック信号」の表示が [LOW] になる車両の場合はこちらを選びます。

6 各項目を設定したら、「現在地」ボタンを押す

外部機器の入力設定を行う

本機に外部機器を接続したときは、AV1/AV2の入力設定を行ってください。
工場出荷時は、「AV1入力：OFF」・「AV2入力：OFF」です。

1 「メニュー」ボタンを押す

2 設定・編集にタッチする



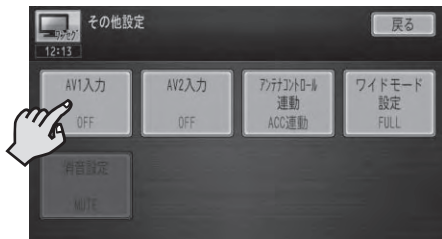
3 AV設定にタッチする



4 その他設定にタッチする



5 AV1入力またはAV2入りにタッチする



AV1入力

本機背面のRCA入出力ケーブルに外部機器を接続したときに設定します。タッチすることによって、以下のように切り換わります。

OFF → iPod → VTR → EXT → OFF に戻る

OFF	何も接続していないときに設定します。
iPod	iPodを接続したときに設定します。 (※7ページ)
VTR	ポータブルビデオなどの映像機器を接続したときに設定します。(※13ページ)
EXT	地上デジタルTVチューナー以外の映像ソースのエクスターナルユニットを接続したときに設定します。(※13ページ)

AV2入力

本機前面のAV入力端子(※6ページ)に外部機器を接続したときに設定します。タッチすることによって、以下のように切り換わります。

OFF → VTR → OFF に戻る

OFF	何も接続していないときに選びます。
VTR	ポータブルビデオなどの外部機器を接続したときに設定します。

メモ

- 【AV1入力】 / 【AV2入力】 以外の設定項目については、『ナビゲーション&オーディオブック』の「AV設定」 - 「その他設定」をご覧ください。

6 各項目を設定したら、「現在地」ボタンを押す